

# 国語科学習指導案

日 時 令和3年6月4日(金) 第5校時  
対 象 2年 3組 36人  
指導者 教 諭 小 笠 原 淳

1 単元(教材)名 「漢詩の風景」(資料:石川忠久「漢詩の風景」光村図書 2年)

## 2 単元について

### (1) 教育的意義

現代社会における情報の高速化は著しく進み、情報端末もパソコンやスマートフォン、タブレット、スマートウォッチなど多岐にわたる。そんな社会の情勢も踏まえ、正しいICT教育を意識したGIGAスクール構想も始まった。また、新型コロナウイルスの影響により、密や接触を避けるために情報端末を用いたコミュニケーションがより一般化し、オンライン上での言葉のやり取りは、子供たちにとっても今まで以上に日常的な営みと化している。そのような環境で他者と言葉を交わす際には、対話の文脈を捉え、相手の思いを受けとめ自分の思いを適切に表現することがますます重要になると考えられる。そしてそのためには、根気強く対象と向き合い、理解できるまで繰り返し文章を読んだり、自分の真意が伝わるまで何度も言葉を吟味したりする態度が必要不可欠である。

漢文は、日常生活の中ではなじみが薄く、生徒が自分との距離感を抱きやすい教材であるといえる。そこで、本単元では漢詩を口語自由詩にリライトするという活動を位置付け、「ことばの力」を発揮し、文章を自分なりに受けとめて、自分の言葉で表現しなおす機会を設けた。このような活動を通して、一見難解かつ自分とは関係がなさそうに見えるものであっても、根気強く「読み」を繰り返していく態度を育み、そこに込められた思いや考えを受けとめて、自分の言葉で表現する力を付けさせたいと考え、本単元を設定した。

### (2) 単元設定の視点

#### ア 生徒の実態から

本校の生徒は、学習に対する意識がとても高く、自分の力を向上させようとする意欲が非常に強い。国語学習に関連したことでも、古典単語を自主的に学習したり、多くの良書にふれるために読書に親しんだりし、積極的に知識を得ようとする姿がある。特に本学年の生徒は、韻文に触れる機会も多く、本学級の生徒も、詩句の解釈をしたり、豊かに表現したりできる生徒も多い。しかし一方で、自分が作品を十分捉えきれていなかったり、合理性に欠けたりしていると考え、自分の「読み」に自信をもてない生徒もいる。また、自分の「読み」が初読で完結してしまい、自分の捉え方を見直したり、文章や知識を見直したりすることに意欲的になれない生徒も存在する。

そのような生徒の実態を踏まえ、本単元では、自分の「読み」を自分で再考しながら読み進めていくために、正しく漢詩を解釈し、句どうしの結びつきや関連を整理したのち、合理性がある解釈として漢詩を捉え、相手に伝える活動を取り入れた。具体的には、漢詩に表れた思いを口語自由詩という形で他者に伝える活動を行う。漢詩は短い言葉の中に、作者の思いや情景が凝縮されている。その漢詩をただ訳をするだけではなく、口語自由詩にすることで、内容を正確に捉えるだけではなく、作者が描きたい情景をより深く考え、自分の言葉で表現することができる。このことにより、漢詩を正確に捉えた「読み」を基にして、合理的に解釈するという、「読むこと」の力の育成につながるとともに、漢詩の解釈をもとに創作を行うことで、正確な根拠をもとに自分の考えを発信する経験にもつながる。この活動を通して、捉えたり整理したりしながら自分の「読み」を調整し、自分の創作を見直すという態度を身につけさせ、今後の学習への意欲のにも生かしていきたい。

## イ 本校の研究内容との関連から

### ① 「学習を調整する視点」を取り入れた「受けとめる活動」の工夫

[教科論 4(1)ア・イ]

本校国語科において、長年研究を行っている、作品を受けとめるための「構造化」について、「学習を調整する視点」を用いながら、これを見直した。これまでの「構造化」は、文章を正しく受けとめると同時に、自分の解釈を合理的に行い、「読み」を深めることを目指して取り組んできたものである。しかし、生徒自身が「学習を調整する」ためには、どこまでが正しく捉えられているのか、またどこからが自分の解釈であるかを明確に理解できている必要がある。もしその捉えがなければ、自分の「読み」の間違いに気づき、再考につながらないことも考えられる。

本単元においては、漢詩の知識や、書かれている内容を「正しく捉えるための構造化」として整理させた上で、その構造化をもとに、作者の描いた情景を「合理的に解釈するための構造化」として捉えさせ、「読み」が深まることを目指している。このように構造化を二つに分けることによって、生徒が自分の「読み」を可視化しながら整理し、読みの根拠を明確にした上で、より合理的な解釈を行うことができる。このように「読み」の軌跡を残すことで、自分の「読み」を振り返りながら学習を調整していくことができると考える。

### ② 「学習を調整する視点」を取り入れた「受けとめる活動」の工夫 [教科論 4(1)ウ]

本単元では「読み」を深めるために、〈問い〉の吟味を行うこととした。「読むこと」においては、自分が疑問に思ったところや、分からないことを解釈しようとするその瞬間にこそ読みたいという自分の意欲や学習に対する主体性が表れると考える。漢詩という普段触れることのない文章を前にして、初めに自分が感じた疑問すなわち作品への〈問い〉が生まれる。そして、「読み」を進めるごとに修正されていく過程で、最初には気付かない（または解釈できていない）部分に自ら答えを出そうとしていくことができる。その結果、自分自身の「読み」を見直し、主体的に読みに向かうことができるようになると思う。

本単元では、漢詩を読み取る過程における吟味された〈問い〉と、その読み取った内容をもとに、口語自由詩として、他者に伝える過程により、自分の「読み」を調整し、深めることができる。このような単元をデザインすることにより、生徒自身が自分の吟味された〈問い〉やその答えを見直すことで、自分の「読み」の根拠や理由がより明確になり、作品をさらに深く読みとることにつながると考える。

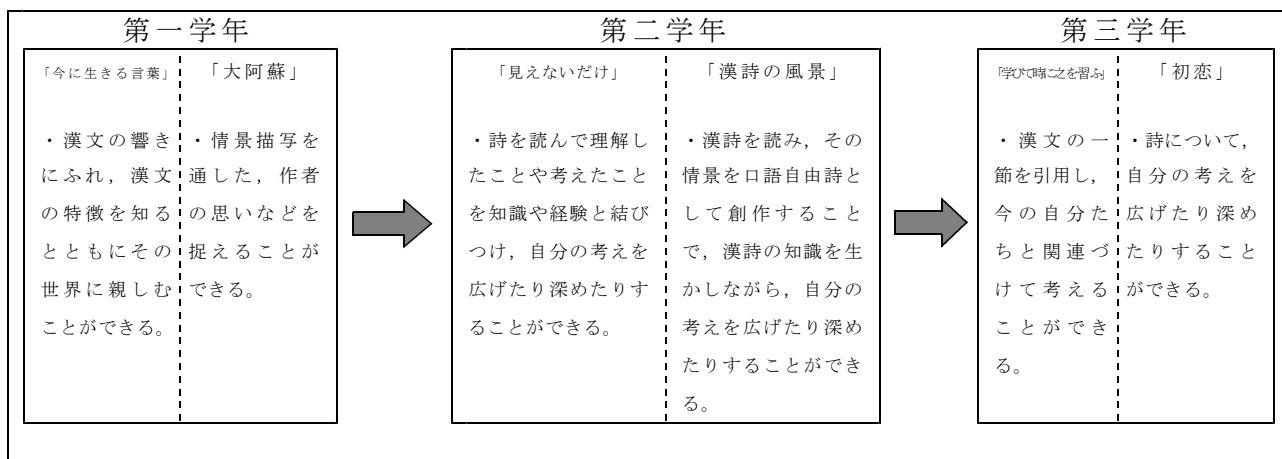
### ③ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫 [教科論 4(2)イ]

本単元では、適性に評価するために、本校国語科で、継続して取り組んでいる「単元シート」を用いている。「単元シート」は生徒が各時間の学びを振り返り、自分の力の高まりを自覚しやすくするという効果があり、生徒の振り返りのために用いてきた。しかし、生徒により振り返りの視点が異なったり、目的に添った記録ができていなかったりするという現状もあった。そこで本単元では、最初に立てた〈問い〉を吟味させ、変容していく〈問い〉についての記載やその授業における記録の視点を教師が明確に指示し、振り返らせることとした。この工夫により、「単元シート」の良さである、自分の考えを自由に記述できる部分を残しながら、単元全体でどのように思考を変化させてきたのか生徒自身が捉えやすくなる。また、教師側が評価する際にも、創り上げた作品と見合わせ、作品に込められた生徒の意図や考えを把握することができ、生徒の学習目標や学習課題に対する取り組みの過程を、見取りやすくなると思った。

### 3 単元の見方

- (1) 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。 [知識及び技能] (3)イ
- (2) 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)オ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

### 4 単元の学習内容のつながり



### 5 単元の評価規準

単元の評価については、以下のような姿を目指すものとする。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	① 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ)	① 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)	① 積極的に漢詩に表れたものの見方や考え方を知り、学習の見通しをもって自分の創る詩を見直ししながら、推敲しようとしている。

### 6 指導と評価の計画

過程	主な学習活動	時間	指導に当たっての手立て	評価
導入	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。</li> <li>2 「春望」を読み、疑問に思ったことから〈問い〉を立てる。</li> <li>3 「春望」を読んで最初に捉えた作者の思いを考えて、口語自由詩を創る。</li> <li>4 漢詩という作品形態について気付いたことをまとめる。</li> </ol>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「大阿蘇」での学びを振り返り、叙景詩は情景描写を通して、作者の思いを描いていることを想起させる。</li> <li>○ 各時間の最後に〈問い〉を吟味していくことを告げる。</li> <li>○ 内容を想像することが難しい場合は、詩の中で用いられている漢字から内容を想像して書かせる。また、教師が作った試作から考えさせる。</li> </ul>	

展	<p>5 「春暁」,「絶句」,「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」を読み,それぞれの漢詩に描かれた情景や作者の思いを捉える。</p> <p>6 三つの詩の読解を通して考えたことを基に「春望」の〈問い〉を吟味する。</p> <p>7 「春望」について語注を参考に内容を捉え,自分の口語自由詩を再度創り直す。</p>	4	<p>○ 語注を参考に,漢詩を訳し,句どうしの関連性について考えさせ,構造化させる。(「正しく捉えるための構造化」)</p> <p>○ 漢詩で用いられている語句から一語選び,その語句が詩の中でどのような役割を果たしているか,他の語句との関連性が分かるように構造化させる。(「合理的に解釈するための構造化」)</p>	<p>[知識・技能] ①</p> <p>【ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>語注等を用いたり辞書を引いたりしながら,漢詩における語句の意味を適切に理解し,構造図の中に取り入れているか。</li> </ul> <p>[思考・判断・表現] ①</p> <p>【ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>選んだ語句が漢詩の中でどのような役割を果たしているか,自分なりに考えて構造的に表せているか。</li> </ul> <p>[主体的に学習に取り組む態度] ①</p> <p>【単元シート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三つの漢詩を読解する中で,「春望」に対する〈問い〉を吟味できているか。</li> </ul>
開	<p>8 クラスメイトの考えた〈問い〉と作った詩の一覧をタブレットで確認し,自分で対話の相手を選んで意見を交流する。</p> <p>9 対話によって得られた新たな気付きや,見方・考え方を基に,自分の口語自由詩を推敲する。</p>	1 (本時)	<p>○ 自分の〈問い〉と似た〈問い〉や異なる〈問い〉の人を探させ,対話の相手を選択させる。</p> <p>○ 「春望」に込められた作者の思いを構造化に書き足させ,口語自由詩の推敲につなげさせる。</p> <p>○ 自分の作品を修正する際は,読み取った根拠や理由を記入させ,修正箇所は赤ペンで記入させる。</p>	<p>[思考・判断・表現] ①</p> <p>【ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢詩から受けとめた思いや考えを,対話によって広げたり深めたりして,新たに読み取った内容を自分の構造図に位置付け,口語自由詩の中で自分の言葉を用いて,表現できているか。</li> </ul> <p>[主体的に学習に取り組む態度] ①</p> <p>【ワークシート】【単元シート】</p> <p>【観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>吟味してきた〈問い〉を基に,主体的に他者と交流しようとしているか。</li> <li>今まで学んできたことを基に口語自由詩をよりよいものにするために「読み」を調整しながら推敲しようとしているか。</li> </ul>
終末	<p>10 自分の口語自由詩を完成させる。</p> <p>11 単元を通して学んだことを踏まえ,漢詩という作品形態について考えたことや気付いたことをまとめる。</p>	1	<p>○ 自分の創った口語自由詩と漢詩を比べさせ,漢詩の特徴と魅力について考えさせる。</p>	<p>[思考・判断・表現] ①</p> <p>【ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>口語自由詩と「春望」を比較し,漢詩だから表現できていることについて考え,自分の言葉で表現できているか。</li> </ul>

7 本時の実際 (6 / 7)

(1) 本時の指導目標

「春望」に対する〈問い〉を参考に、それぞれが自分の言葉で表現した口語自由詩を交流することを通して、読み取ったことを今までの学習と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(2) 本時の評価

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
十分満足できる状況		「春望」から新たに読み取った内容を自分の構造図に位置付け、読み取った内容を効果的に口語自由詩に生かしたり、根拠や理由を詳しく書き込んだりしている。	自分の口語自由詩をよりよくするために、対話する相手を選んで意見を交わし、相手にも新たな気付きを与えている。また、口語自由詩を推敲する際に今までの学習内容を生かそうとしている。
おおむね満足できる状況		「春望」から新たに読み取った内容を自分の構造図に位置付け、読み取った内容を口語自由詩に生かしたり、根拠や理由を書き込んだりしている。	自分の口語自由詩をよりよくするために、対話する相手を選んで意見を交わしている。また、口語自由詩を推敲する際に今までの学習内容を生かそうとしている。
努力を要する状況とそれに対する生徒に対する手立て		おおむね満足できる状況にない生徒には、二つの構造化を見直させ、他者の口語自由詩における「春望」の捉えと、自分の捉えた思いとの違いや共通点がどこか考えさせる。	おおむね満足できる状況にない生徒には、〈問い〉の内容から、自分の口語自由詩を見直す上で対話すべき相手を示唆し、交流を促す。

(2) 資質・能力についての関連図

	知識及び技能	思考力、表現力、判断力等	学びに向かう力、人間性等
学校教育目標を三つの柱で整理した資質・能力	<u>物事の本質を深く追究</u> したり、よりよく自己を生かして協働したりするための知識・技能を身に付けるようにする。	目的に向かって知識・技能を効果的に活用し、 <u>よりよいものをつくり上げるための必要な力を養う。</u>	<u>自分と他者の理解を深め、よりよいものをつくり上げ</u> 、豊かな自尊感情並びに他者を大切に する深い感情を育み、社会に積極的に参画していく態度を養う。
本校国語科の目標	<u>言葉によって物事を捉え</u> 、他者の思いや考えなどを理解したり、自分の思いや考えを伝えたりするための知識・技能を身に付けるようにする。	<u>言葉による見方、考え方を働かせ、その思いや考えに至る過程や理由、根拠まで含めて、理解したり伝えたりするための思考力や想像力を養う。</u>	<u>「ことばの力」を大切にし</u> 、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重して、その能力の向上を図る態度を養う。
	(教科論4(1)ア) 事実を基にした「正しく捉えるための構造化」	(教科論4(1)イ) 「言葉による見方・考え方」を基にした「合理的に解釈するための構造化」	
本単元の目標	<u>現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を</u> 知ることができる。	<u>文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。</u>	言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、 <u>思いや考えを伝え合おうとする。</u>
		(教科論4(1)ウ) 課題解決のための〈問い〉の吟味	
本時の目標		「春望」に用いられている言葉から、そこに込められた <u>作者の思いについて考えを深め、口語自由詩の中に表現している。</u>	<u>対話する相手を自ら選び、積極的に意見を交わして</u> その内容を自分の口語自由詩の推敲に役立てようとしている。

(3) 目標行動

- ① 本時で自分がどんなところに着目して「春望」を口語自由詩として表現したか整理し、今までの漢詩の学習をどのように生かすことができたか、単元シートに記入することができる。例えば次のような書き込みをすることができる。(G)

- 漢詩の学習を通して、キーワードから言葉をつなぎ、内容を解釈していくことで、ある一つの言葉や文字から、題名や詩全体のつながりを見つけられるようになった。
- 漢詩の授業で行った、一つ一つの漢字に着目して読み進めることで、友達との交流を通して得た考えを自分の中で深めるときにも、相手がどんな言葉に着目しているか意識することができ、言葉のつながりにより、解釈を深めるという方法を学ぶことができた。
- 漢詩という難しい文章でも読み解くことができたので、言葉である限り、疑問（問い）や予想から言葉を関連づけることで必ずその意図を読み取れると考えた。

- ② 交流を通して得られた内容を基に漢詩を見直し、新しく気付いたことを構造図に書き込んだり、口語自由詩を推敲したりすることができる。たとえば、次のような書き込みができる。

(構造図) \* の部分新しい書き込み部分とする。

(口語自由詩) \*太字の部分新しい書き込み部分とする。

国は乱れる  
自然はありのまま  
自然は残る  
町の草木は  
春の移ろいを見せる  
時世への悲しみから  
ふと自然に目を向けると  
花や鳥はさえずる  
まじまじと自分との違いを見せつけられる  
感情を乱す

- ③ 〈問い〉を基にした交流を通して、相違点や共通点を基に作者の思いをどのように捉えているか整理し、ワークシートに記入することができる。
- ④ 自分の口語自由詩を見直すために、他者の立てた〈問い〉と口語自由詩を参考にし、対話する相手を選ぶことができる。
- ⑤ R 本時の流れを確認し、学習の見通しをもつことができる。
- ⑥ R 学習課題が、「〈問い〉を基にした交流を通して自分の口語自由詩をよりよくしよう。」であることを確認することができる。
- ⑦ R 前時までの学習を振り返り、学習目標が、「漢詩に描かれている作者の思いを読み取ろう。」であることを確認することができる。

(4) 本時の実際

時間	学 習 過 程	指 導 上 の 留 意 点	研究との関連
2'	<p style="text-align: center;">スタート</p> <p>学習目標 と学習課題、 学習の流れ を確認する。</p> <p style="text-align: right;">1</p>	<p>〈導入〉</p> <p>〈学習目標〉</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">漢詩に描かれている作者の思いを読み取ろう。</p> <p>〈学習課題〉</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〈問い〉を基にした交流を通して自分の口語自由詩をよりよくしよう。</p>	
5'	<p>(⑦ R, ⑥ R, ⑤ R)</p> <p>他者のた てた〈問い〉 と口語自由 詩を参考に、 交流相手を 選ぶ。</p> <p style="text-align: right;">2</p> <p>(④)</p>	<p>〈展開〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の端末から、〈問い〉と口語自由詩の一覧を確認させる。その際に、自分と似た〈問い〉や異なる〈問い〉を立てた生徒を探させる。</li> <li>交流の際は、ワークシートのみを持って移動させ、〈問い〉に対する答えや、「春望」に対する捉えを理由とともに記録させる。 (達成していない生徒への手立て)</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>分類された〈問い〉の一覧を基に、口語自由詩を確認させ、自分の口語自由詩と比較させて考えさせる。</li> <li>〈問い〉に対する答えがどんな答えになるか思いつかない〈問い〉を立てた相手を探させる。</li> </ul> </p>	<p>教科論 「課題解決のための〈問い〉の吟味」(4(1)ウ)</p>
20'	<p>〈問い〉 と口語自由 詩を基に交 流し、それ ぞれが捉え た作者の思 いについて 考える。</p> <p style="text-align: right;">3</p> <p>(③)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈問い〉の答えを口語自由詩のどの部分に生かしたか、漢詩の中の、どのようなキーワード(漢字や語句)を基に、口語自由詩を作ったかなどの視点をもって交流させ、ワークシートに記録させる。</li> <li>交流を通して、新たに気付いた作者の思いや解釈を基に、「春望」を見直させ、気付いたことを構造図に位置づけさせる。その際に、漢詩の中のどの部分が根拠となるか、再度整理させ、どの部分から捉えた考えかを明らかにさせる。</li> </ul>	<p>教科論 「見方・考え方」を基にした「合理的に解釈するための構造化」(4(1)イ)</p>
10'	<p>「春望」 に描かれた 思いを確認 し自分の詩 を見直す。</p> <p style="text-align: right;">4</p> <p>(②)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流で再考したことから、自分の口語自由詩を推敲させる。その際、変更する部分は赤字で書き直させる。 (達成していない生徒への手立て)</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手のキーワードを確認させ、そのキーワードが自分の構造図のどこに位置づけられるか考えさせる。</li> </ul> </p>	
13'	<p>書き上 がった口語自 由詩を共有 する。</p> <p style="text-align: right;">5</p> <p>(①)</p> <p style="text-align: center;">ゴール(G)</p>	<p>〈終末〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数名の生徒に、自分の口語自由詩の推敲箇所となぜそのような推敲したか発表させる。その際、書き換えた理由や根拠を明確に説明させる。</li> <li>これまでの漢詩の授業をどう生かすことができたか単元シートに記録させる。</li> </ul>	<p>教科論 単元シートの活用(4(2)イ)</p>